

経営比較分析表

福岡県 新宮町

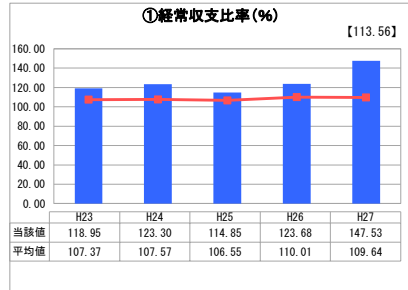
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	64.14	98.48	3,900

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,139	18.93	1,644.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
30,948	12.53	2,469.91

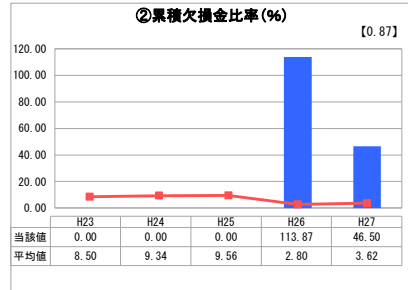
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

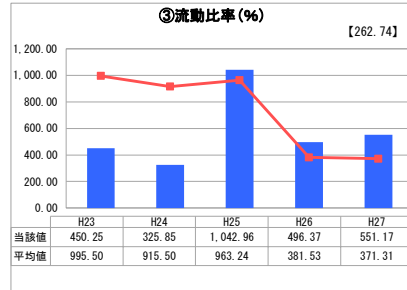
1. 経営の健全性・効率性



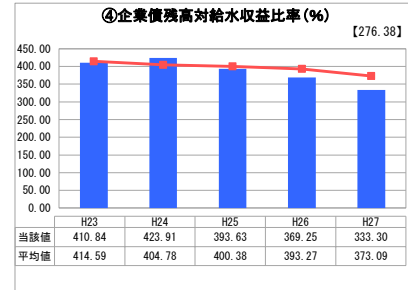
「経常損益」



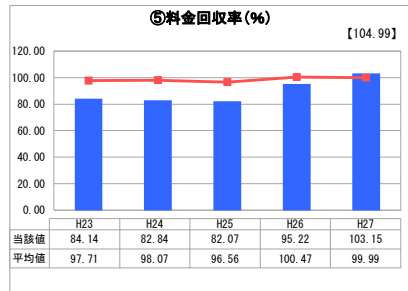
「累積欠損」



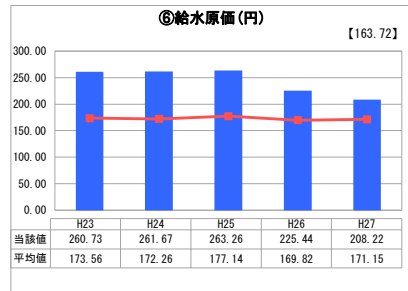
「支払能力」



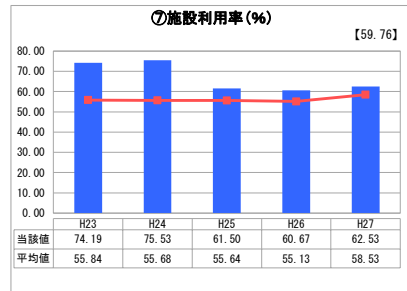
「債務残高」



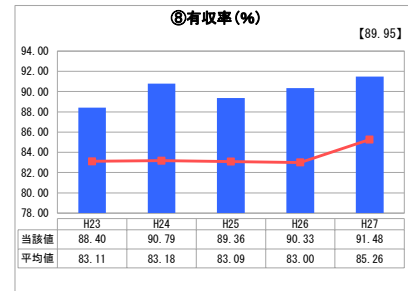
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

給水戸数の増加により加入金等の収入が増加したため、水道事業の経常収支比率は、平成23年以降毎年100%を超え、類似団体平均値と比べて高い値になっています。節水機器の普及によるひとりあたりの使用水量は減少していますが、平成36年度までは小幅な人口増加が見込まれており、使用水量も若干の増加が期待できます。

累積欠損金比率は、平成26年度に会計制度の見直しがあり減損損失を計上したため数値は大きく、平成27年度もその影響を受けています。

企業債残高対給水収益比率は、概ね類似団体平均値と同水準ですが、今後は給水収益が伸び悩む中で管路更新を行う必要があり、起債残高が増える可能性があります。

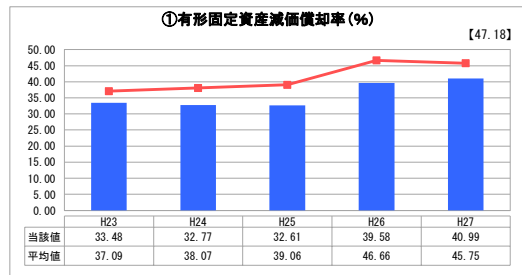
料金回収率と給水原価の指標からは、給水原価が類似団体平均値よりも高く、給水に係る費用が給水収益だけでは賅えていないことがわかります。一方で、施設利用率と有収率は類似団体平均を上回っており、効率的な施設運営が行われているといえます。新宮町には自己水源がほとんどなく、90%近くを受水で賄っており、福岡地区水道企業団や北九州市に支払う受水費が給水原価を高くする原因となっています。

2. 老朽化の状況について

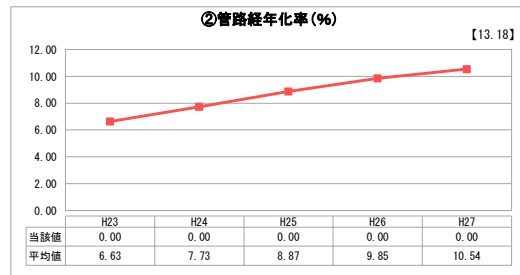
毎年拡大していく下水道の面整備に合わせて、配水管の移設・更新を行っております。そのため、有形固定資産減価償却率は類似団体平均よりも低く、管路更新率は高くなっています。

しかし、昭和48年に水道事業を開始しており、今後法定耐用年数を超過する管路が増加していく予定です。

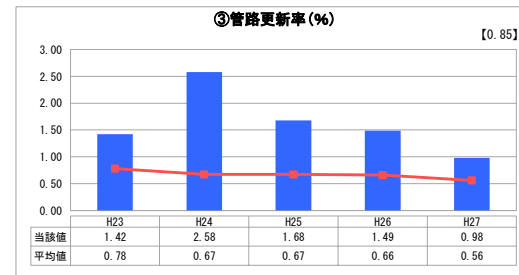
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

毎年拡大していく下水道の面整備に合わせて、配水管の移設・更新を行っております。そのため、有形固定資産減価償却率は類似団体平均よりも低く、管路更新率は高くなっています。

しかし、昭和48年に水道事業を開始しており、今後法定耐用年数を超過する管路が増加していく予定です。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。